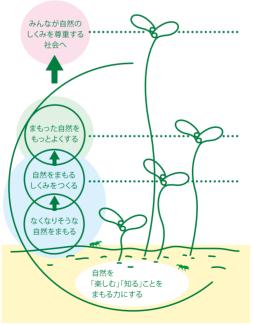


自然のちからで、 明日をひらく。

ANNUAL REPORT

NACS-J 年次報告 2015.4 - 2016.3

日本の自然を半世紀以上見つめ、自然のしくみを 尊重する社会づくりを目指してきたNACS-J。皆様 のご寄付・ご支援により、2015年度も多くの活動 を進めることができました。たくさんのご支援あり がとうございました! 15年度の主な活動の内容や 成果を、担当スタッフからご報告いたします。



▲NACS-Jの活動は、みんなの自然を想う気持ちを守る力にし、なくなりそうな自然を守り、守った自然をもっとよいものにして、自然のしくみを尊重する社会へつなげていくこと。この活動段階に応じさまざまな取り組みを行っています。

(NACS - J理事長) **亀山 章**

壮その 象徴するイヌ 危機 中で 程度とされるイ 問です。 は、 ヌ クワシ しばし もの か Ν Ġ Ā 放うため、 生 です。 が C 一息個 ヘワシ ば 大空を舞う姿は 取 J -ヌワ り上 体数が5 豊 0 生息地 かな自 0 シを絶滅 げ 長 ħ 11 まで 0 き 歴 の 0 中 勇

を

活

環境改 され 玉 0) 羽 |や県、 Ė きま 各地 \bar{o} ため た 0 が 0 研 究機 V 関で ず 施業 n も成 が 生 試 息

登

目

果を S 期 7 茁 N が な取り ロせませ る赤谷プ 群 馬 深県 み り組み んで D なか した。 É ジ 始 エ ク み め ŀ 町 7 Ν で で Α 13 ŧ は 進 C

が、

2 0 1 5 年には人工 林 を

す。 み くりだし、 画 京性 ć ゃ 積に皆伐 す。 す の 場 動 **%をつくろうと** 物を増 イ 0 して草地の 活 ヌワシの 動には É Ĺ 心の環境 餌と 全国 する 狩 なる . の ij を 多 を

> さら は、 もと各地 きを受け、 て定着しつつあります。 いう新たな自然保護の手法とし 録 向けた活動 通じて地域を活性化させると 1 指 動 がされ ぼ 縄 す ク Ó 動 0) 地 エ 辺野 がきも、 で活発化 しくみを活か る段階に みなかみ町 域 コ で自然を守り、 パ 古 が進められ、 1 0 当協会 して 埋 ク 来て 新 め 立 の 規 でも W 、ます **没登録** た保護 支援 7 、ます 崩 登 0) そ 近 動 題 を 0

を指 向 7 16 年度 外部 摘しつ こう 0 土 Ź 砂 着状 合から絶滅危惧生物を 削 V から持ち込 う、 るところです 題 心など、 態に 大きな課題に になっ ぇ 新たな問 ñ 7 る埋 1/3 、ます 葆 題 め

立

例 保 Ħ 階 T 一する活動を主 Þ 「をひ とし 0 を 11 、ます 活動を続けています 示 た。 لح Ī せる NG O を 目指 地 が 白 道 社 な活動 然 15 軸 を 会的 年 テ \mathcal{O} は 据えようと ち 1 を そ 活 マ か 続 0 に 5 進 it 0 で、 備 7

ユ

1

-スが待た

んれます

宮

崎

県

綾

町

ユ

ネ

ス

コ

エ

コ

H 功 5 ல்

n 個

ま

た。 企

今

春 Ġ

に 7

n

明 き

業

か

0

支援

寄

赤

谷

 \ddot{o}

森

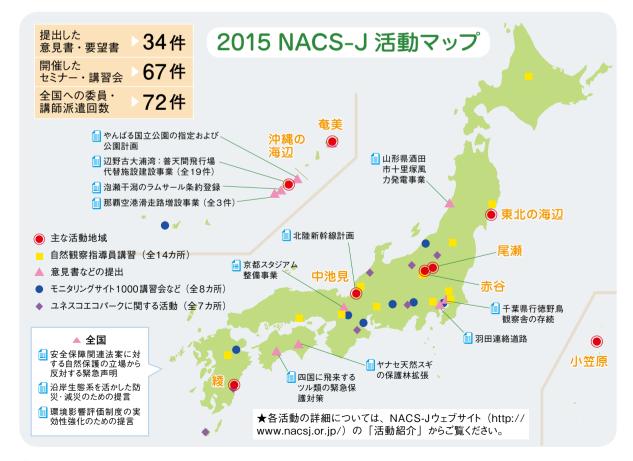
で幼

湯鳥が

孵ぶ

す ؿ が

化ゕ年



地域づくり 赤谷の森を活かした



でじませいいち 出島誠一 (生物多様性保全室)





◀伐採後の試験地 上空でエサを探索す るイヌワシ。

暮らす森づくり イヌワシやクマタカが

タカを指標とした生物多様性保

クマタカについては、「クマ

全に資する森林管理」という提

現頻度が高まっているのが確認 息地とするイヌワシが狩りをす ているイヌワシが観察されたほ 後の試験地の上空で獲物を探し haの伐採を行ったところ、 設定した成熟したスギ人工林2 ます。15年10月に試験地として 試験を14年9月から開始してい るための開けた環境を創出する ついては、草原地帯を本来の生 イヌワシの生息環境の向上に 試験地周辺のイヌワシの 伐採

> シと異なり、 しています。

森の中でも狩りを クマタカはイヌワ まな植生の山地森林に広く分布 カは北海道から九州までさまざ 案資料を作成しました。クマタ

空間があることが重要です。

日本の人工林では伐採など

木が密生し過ぎない適度な林内

まざまな中小動物が生息し、 狩りのためには、獲物となるさ することができます。しかし、 携した地域づくりの推進です。 行っていますが、現在の重点事 復元と、持続的な地域づくりを のユネスコエコパーク登録と連 カの低密度管理、 の増加傾向がみられるニホンジ 林管理の提案と推進、 マタカを指標とした具体的な森 上をはじめとするイヌワシ・ク 始したイヌワシの生息環境の向 項は、①2014年9月から開 が経過しました。 プロジェクト」は開始から12年 る森林生態系の協働管理「赤谷 1的として、さまざまな活動を 群馬県みなかみ町で進めてい 生物多様性の ③みなかみ町 **②個体数**

振興する取り組みを進めます。 境を復元しつつ、地元の林業を 携しながら、イヌワシの生息環 有する林業関係者、 陸ワシタカ研究会や、 たイヌワシのつがいが、11年以 方々がモニタリングを続けてき 備を進めています。 るため同様の取り組みを行う 降消失しています。 では60年以上に渡って地元の イヌワシの生息環境を向上させ 南三陸地域 国有林と連 地元の南三 山林を所

ご報告する予定です。 また、宮城県南三陸地域

定しており、

16年度中に成果を

9月までを第1次試験として設 されています。この試験は16





イヌワシの生息環境を復元しつつ、 地元林業の振興に 向けた取り組みを進めている南三陸町の民有林(スギ林)。

取り組みも進めていきます。 案を全国の森林管理に普及する と考えています。 することができるのではない 標として森林管理を行うこと ます。そのため、クマタカを指 繁殖しているクマタカも存在し 成長した人工林を営巣木として からず存在しています。一方で、 し生物多様性の低い森林も少な 生物多様性を保全するとと 持続的な木材生産を推進 今後、 この提 か

ーホンジカをどうするか

エホンジカの管理は、

日本の

友会およびみなかみ町役場と情 予測される状況を含めて地元猟 価指標を整理して実行し、そこ 科学的なモニタリング方法と評 度から、低密度の状態における 討と試行を始めています。 維持することを目標として、 加傾向を抑え、現在の低密度を 確認されています。 の拡大がモニタリング結果から トエリアは、 なっています。赤谷プロジェク 森林生態系保全の最大の課題と 個体数の増加と分布域 た情報をもとに、今後 まだ低密度の状態 今後この増 13 年 検

> 理を実現したいと考えています。 と言えるニホンジカの低密度管 むことを予定しており、日本初 度からは試験的な捕獲に取り組 報共有を進めてきました。 目指せユネスコエコパーク

▲みなかみ町の木材を 使いカスタネット製造 が再開した。

の管理が行われず、樹木が密生

地元木材を提供することで、 が、赤谷プロジェクトと連携 時製造が中断されていました の輸入材の入手が困難になり一 きた工場があります。 ネットのほぼすべてを生産して 携して取り組み始めています。 柱のひとつに位置づけ、森を活 をユネスコエコパークにおける みなかみ町は赤谷プロジェクト 17年の登録を目指しています。 ています。16年に申請書を提出 ネスコエコパーク登録を支援し かした持続的な地域づくりに連 15年度から、 みなかみ町には教育用カスタ みなかみ町のユ 北米から

ネットを活用しています。

からの

地元産業であるカ

ハスタ

主要なコンテンツとして、 みと学びの家」を設置し、 を発信する拠点として「森の恵 ける自然を活かした地域づくり 町は、ユネスコエコパークにお

造が再開されました。

みなかみ

全国の里地里山モニタリングから ノウサギの減少が浮き彫りに -カメラに記録さ れたニホンジカ (左)、 ウサギ(右)。

たかがわしんいち **高川晋一** (市民活動推進室)

▲モニ1000調査を行っている鹿児島県の調査地「漆の里山」。

問わず本州のほとんどの調査地 記録できるチョウ類・在来植物 タル・ヘイケボタルの個体数、 るデータがほとんどなかった里 まに人の手が入らなくなったこ で減少していることから、 ノウサギは都市部・中山間地を いることが分かりました。特に の種数などが全国的に減少して かとなり、ノウサギやゲンジボ やまの生物多様性の現状が明ら これまで全国的な傾向を測れ 里や

でいます。例えば鹿児島県の調 データ活用の支援にも取り組ん

「漆の里山」では、12年に

市民調査から見えてきた 全国的なノウサギの減少

となるだけでなく、最近では世 見する「市民調査」は、 し調べることでその価値を再発 る上でも期待されています。 界全体の生物多様性情報を集め 自然を守るための強力な手立て 身近な自然を市民自身が観察 地域の

夕が集まりました。 0)」には、 調査地から120万件ものデー 万人が参加し、約200カ所の 7年間で約2500人、延べ7 0里地調査 る「モニタリングサイト100 査員と環境省と共同で進めてい NACS-Jが全国の市民調 2015年までの (以下、モニ100

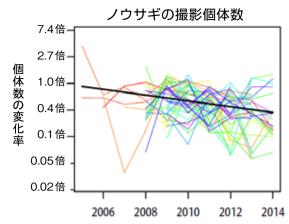
> という成果も上がっています。 カヤネズミの生息地が回復する 体の取り組みによってカエルや 方で、一部の調査地では市民団 た。喜ばしくない結果が多い 録種数が大きく減少していまし 体数が多いサイトでは植物の記 が拡大し、特にニホンジカの個 どの大型哺乳類は全国的に分布 シシ・ニホンジカ・カモシカな チョウといった外来種や、 ます。また、アライグマやガビ ているのではないかと考えて 換わるなどして全国的に失わ とで草原的な環境が森林に置

環境基本計画に活かす 調査データを地域の

京でイベントを開催しました。 15年には山梨・大分・三重・東 会・展示会の開催にも力を入れ、 察指導員連絡会と協力した発表 め各地の博物館や会員・自然観 の普及や仲間づくりを進めるた 道発表で伝えたほか、 レポートやニュースレター・ また各調査地での市民調査の NACS-Jでは調査成果を 市民調査



▲山梨県内の指導員と連携し、市民調査発表会・体験会を開催。



▲ノウサギの個体数の全国傾向。黒線が全国傾向で、カラーの折れ線 が各調査地の傾向。縦軸は各調査地の調査日数や調査条件も考慮し て統計的に推定した個体数の変化比率。



▲ネオニコチノイド系農薬の生態系影響に関するシンポジウムを開催。



▲三重県で博物館・指導員連絡会と連携した市民調査の普及啓発イベ ントを開催。

行動計画をつくるワークショ

実態を伝えるためのシンポジウ

の生態系影響の

て注目されている「ネオニコチ

元関係者の方々と地域の保全

か、

新たな自然保護問題とし

るのも大きな特徴です。 S-J会員·自然観察指導 方々の活動があって生まれて 果活用の事例は、 値が明らかとなり、 また、 地元の 蒷

ネオニコチノイド系農薬 の問題を発信 ACS-J会員が取り組む里 15年にはこのほかに、 各地

0

/ ラム

の

開発も進めてい

やまの保護案件の支援を続けた

けられたことは大きな成果だと でもその場所の重要性が位置づ で無名だった地元の里やまの価 ます。市民の手によってこれ 略に活用される事例も増えて 境基礎調査や生物多様性地域 のうち60カ所ほどが指定されま ら発表された「重要里地里山 評価することになりました。 施効果をこの場所の生物種数で られたほ 15年に市の環境基本計画で「 プを開催。 した。これ以外にも市の自然環)里山」 また15年12月には、 全国のモニ1000調査地 か、 が重要地域に位置付け これをきっかけに、 市の環境施策の実 このような成 行政計画上 環境省か N A C

> が伝えられました。 法を改める必要があることなど が出ていること、 ことが難しい農薬であること 農薬の毒性が大きく変化するた 系農薬は、 演者を招き、 ムを開催しました。 獲得を促すような現在の利用方 め生態系影響の全体をとらえる 合 ムにはスイスの国際自然保護連 (IUCN) 特にトンボに大きな悪影響 生物の種類によって ネオニコチノイド 研究チームから 害虫の抵抗性 シンポジウ

パートナーとさらに連携を強 物館や動物園といった新た けを強めていきます。 に活用されるようさらに働きか ており、 を通じて市民調査の普及や各 いただける新たな市民調査。 0 いく予定です。17年にはモニ 0) 今年も全国規模のプロジェ データが各地域や国の政 00の調査地募集も予定し 活動支援を続けるととも より多くの方に参加 また、

今後もご注目ください。

埋め立て土砂で揺れる辺野古 現地調査に基づきリスクを指摘



▲防衛省からのヒアリングでは、環境監視等委員会への情報提供 や市民への情報開示が適切ではないことを指摘した。

▲辺野古の海でのボーリング工事によ る周辺環境への影響を把握するため、 周辺海域で行っているサンゴ礁の健康 度調査。2016年2月時点では、前年 までと変わらぬ健全な状態を保ってい た。同時に、水質やジュゴンの

> まべまりこ安部真理子 (保護室)

食痕調査も行っている。

外来種問題と自然破壊 埋め立て土砂調達に伴う

きました。

土砂が必要とされます。

土砂

0

本事業では2100万㎡もの

は、本来は環境影響評価 があるのです。このような問題 が土砂に紛れて侵入するリスク 性・毒性の高い特定外来生物が 場所が含まれます。また、 スメントは土砂の調達先が示さ ものですが、本事業の環境アセ 講じられた上で計画が進むべき スメント)で予測され、 います。これらの特定外来生物 土砂調達予定地から発見されて しているだけでも 9種もの侵略 よび、生態系も気候帯も異なる 内までの西日本の広い範囲にお 調達予定地は奄美大島から瀬戸 (アセ 判明

防除対策として石材の水で

目視の強化が事業者に

考を求め、

要望書を提出しまし

辺野古の土砂の持ち込み量

然を大きく破壊する本事業の再

念が残ります。 求められましたが、

沖縄と奄美の自

効果には懸

二つの問題が新たに表面化して 調達予定地の自然破壊と、 事業の埋め立て計画が進んで 搬入に伴う外来種の移入という 古の海の埋め立てそのもの 普天間飛行場代替施設建設 生物多様性に富んだ辺 辺野古のサンゴ礁 土砂 土砂 埋 の問 0 め 県土砂搬入規制条例」を制定 外来生物の侵入を防ぎ、 としなくてよいという現在 者が土砂を業者から購入する場 れないまま終了しました。 合は、環境アセスメントの対象 沖縄県では、

立て土砂」に関連して、 題に加え、2015年は

クの混入が明らかになりまし イロゴケグモとオオキンケイギ の採石場で特定外来生物の 査を実施したところ、 で、奄美大島から沖縄島に持ち なった那覇空港滑走路増設事業 条例施行後、 ようになりました。16年3月に、 入・使用の中止を勧告できる 混入があれば防除策の実施や搬 立ち入り調査を実施し、 15年11月に施行。これにより、 生態系を保全するため、「沖縄 律の不備を突いたものでした。 込まれる石材に対し県が事前調 外来生物侵入の恐れがある場 県が搬入前後にかかわらず 第一号の事業と 土砂搬入に伴 奄美大島 独自 付着

辺野古土砂調達予定地のひとつ、奄美大島住用町における潜水調査



▲調査状況。透明度は1m程度しかなく、生きものが見当たらない。



▲潜水地点から見た奄美大島住用町の採石場。



▲海底には泥が厚く堆積し、手を入れるとすっと入っ ていく。表面は酸化して茶色いが直下は真っ黒で、生 物が生息できない還元状態(酸素不足)となっていた。



▲サンゴは、10cm程度のキクメイシや10~30cm程度のハマサンゴが岩の上に生育し ているものの、表面を粘土で覆われ気息奄々のように見える。

辺野古調査も継続実施中

性が高い課題であるため、

に達成年が15年に早めて設定さ

脆弱な生態系の保全です。
ばいらく
はサンゴ礁や砂浜、干潟な

ための国際目標で、

その目 干潟などの

l標 10 める

生物多様性の劣化を食い止

ニタリングを提案しました。

でのジュゴンの食み跡調査も行 行うとともに、今後の本体着工 サンゴ礁のモニタリング調査を 周辺海域でこれまで行ってきた ましたが、 .備え、調査地点を追加設置し、 査を開始しました。 辺野古では、 今年は食み跡を見 埋め立て予定の 海草藻場

ています。

NACS-Jは沿岸

一態系の劣化に歯止めをかけ

生態系を劣化させる事業を進め

目標に逆行するように沿岸

と相談して地域の方ができるモ 表するとともに、 示唆されました。 場に面する海底ではサンゴの上 を行いました(上写真)。 要請に応え、土砂採取による赤 ある奄美大島の住民の方から S- Jは調達予定地のひとつで 査も困難が予想され、 赤土流入の被害が大きいことが にも泥が積り、砕石に起因する 土流出の状況について潜水調査 入リスクが強く懸念されます。 (壊も大きな問題です。 れたの 土砂調達予定地での自然環境 でしたが は比較 的洗 、辺野古は「土 洗浄も目視調 調査報告を発 水質の専門家 いやす 移入種混 N A C 採石 0

> とめ、 された「愛知ターゲット」 締約国会議(COP10) ページをご覧ください。 行っています。意見書一覧は18 海の保全のあり方など根本的な 共通する、 法律の改善についても提言をま 2010年の生物多様性条約 国に対する働きかけを 環境アセスメントや で採択 は、

県庁を訪問し、 た。 交渉を行っています。 つけることはできませんで 環境省那覇事務所、 意見書の提出

一覇空港事業の約80倍にも

那覇空港で使

サンゴ礁保全は世界的課題

日本各地の海の保全に

ほぼ毎月のように沖縄県防 沖縄

活動を続けていきます。

の年でした。しかし、

日本政

の達成目標年という大きな節

昨年は、

この目

·標 10

自然を守る

海辺の自然を守り、 向き合い方を問いかける

▲自然しらべ「砂浜 ビンゴ」の観察セミ ナー、砂浜教室。

> さならとも こ 古村智子 (自然保護部)





城県南三陸町の波伝谷地区付近(左)。復興道路や防潮堤の建設が着々と進んでいる。



◀沿岸生態系を 活かした防災・減 災を考えるシンポ ジウムを開催。

成果として「沿岸生態系を活 災害が著しい増加傾向にある 機となりました。大規模な自然 域を中心に進められる復興事業 多様でダイナミックな自然と共 全管理検討ワーキングでの検 付き合っていかなければなりま 享受するだけでなく、 の付き合い方を改めて見直す契 は、海と私たち、自然と私たち らた防災・減災のための提言 また、東日本大震災後、 私たちは、 NACS-Jは、 自然から恵みを 脅威とも 沿岸保

自然を活かした防災減災

改めて感じました。 来の生育環境の保全の重要性を 移植に成功したとはいえず、 を行いました。すべての植物 絶滅危惧種を緊急移植した場所 育していた、ミズアオイなどの 建設によって消失する湿地に生 により、砂浜や塩性湿地など ていますが、巨大防潮堤の建設 が経過しました。 沿岸生態系の消失も進んでい 2014年に、 15年もモニタリング調査 東日本大震災から5 の復興・再建が行わ 東北の 復興道路 本 が 0 ま

> 減災を提案しました。 然を活かす、これからの防災 然災害とどう向き合うか」 存するために~」をまとめ、 ンポジウムを開催。 自然のしくみを知り、 。会報では

海を見守る仲間づくり

取り戻 をいただきました。 辺から砂浜の様子につ 浜ビンゴ」を実施し、 調査の「自然しらべ」で、 岸の自然に目を向けてもらうた た、ひとりでも多くの方に、 研修会の講師を務めました。 を見守る仲間を増やすため、 すことも重要なテーマです。 などを開催したり、 ンポジウムやサイエンスカフェ 毎年実施している全国 の自然と人とのかかわり 海の見守り手を増 市民調査 全国 いて報告 [の海 砂 斉 海 ま 0) ゃ

員をはじめとする皆様のご支援 するための貴重な財産です。 ネット 点が多く、 組みを支えてくださった、 海の調査は陸上に比べ 心より感謝申し上げます。 タはNACS-Jが活動 地 域 ワークにより得られ 0 まだまだ遅れてい 協力者の皆様と 難 をを ぇ

本有数のトンボの生息

地

jレ

保全に向けた提 ル登録湿地

する計画で、 源となる山をトンネルで貫通 月に環境への影響がより小さ 持機構に不可逆的影響を及ぼ も条約登録範囲内の湿地の水 ルー 、恐れがあります。 あるラムサー 建設計画は、 中池見湿地」 トヘ を横断する北陸新幹線 しかし現在のルートで 計画が変更されま 湿地の形成・ 2015年5 一(福井県敦る 15年度は 維

◀ 多様な草地環境が広がる中池 見湿地(上)。現在のルートに おける保全上の課題を話し合うシ

ンポジウムを東京で開催(下)。

保全上の課題やその背景にあ

シンポジウムを開催し、 通して広く報道されました。 事業者に提出し、 た環境対策を求める要望書を ラムサール条約の決議に沿 三者評価委員会の設置など、 月にはモニタリング調査の第 きかけを行いました。 事業者や行政などに直接の 周 る環境アセスメントなどの 中池見湿地の長期的 知を行いました。合わせて、 色のな課題について話し合う メディアを な保 16 年 問 全 $\dot{4}$ 働 題 制

を目指 然を守り、 条約事務局などと協力し活 守られる社会を実現するため る予定です。 と実行計画が完成しました。 計画策定への支援も続けて モニタリグ調査や保全・ 引き続き地 の工事は17年度には始 池見湿地にかかる北陸 15年度までに基本計 保護地域が確実に NACS-Jでは 中池見湿地 元市民団体 の自 用



(市民活動推進室)

生物多様性保全の両立を 再生可能エネルギ

業は、 状を共有しました。 なものだけではないという現 われている自然エネルギー事 予防原則の重要性や、 議論では、 報告書が公表されました※ 2015年、 がかりで議論してきました。 ネルギー事業関係者らと3年 を防ぐため、 る自然エネルギー事業の拡大 持続可能な社会と自然エ ギー研究会」 物多様性の損失につなが 必ずしも 環境政策における 議論をまとめた N A C S J に参加し、 「持続可能 現在行 ネ

た。岐阜県平湯温泉をはじ 環境省の検討会で表明しまし きないと、 熱発電開発の規制緩和は、 「県でメガソー 一要性を指摘してい .題も発生しており、 元住民との合意を軽視する 「事例限定であっても看過で 太陽光発電については、 国立公園における地 地熱発電に関する ・ラー ・ます。 建設予定 対応 優

> ての を続けていきます。 況 ガソーラーの開発地になっ 地 に反することのない 今後も自 ゴルフ場開発と同じような状 いくという構図は、 が取れることから、 面積を買い取れば事業の採算 ている実態を明らかにしまし 地となっている林地が狙われ) 開発行為が生物多様性保全 í で 0) す。 事業者は、 ラー 入会地のような共同管理 現 地 |然エネル 建設地とし Ν 訓調査を ACS-Jでは、 安く、 行 ギ かつての 山林が て、 ーのため よう監視 大きな メ か



▲各地で建設が進められるメガソーラー。

を続けていきます。

◀国内希少野生動植物種に指定されて いるオオタカの指定解除の検討につい て、指定解除後も里やまの生態系保護 に貢献するような保護区を新設するなど

の提言を、環境省に対して行っている。

提言や運動によって、

2 0

IACS-Jを含むNGO

 σ

「種の保存法」改正の際に、

定する」「国民による種指定 20年までに300種新規指

意欲的な付帯決議が国会で決 提案制度の設定」などを含む

森林生態系保護地域

ました。 がりつつあります。 種 - Jの提案によって条例指 議されたために実現したも 今後は指定後の現場の |の県民提案制度が開始され 長野県では、 市民提案の機会が広 N A C S 保 全 定

ため、 ングするしくみを、 する企業や個人などをマッチ 0 確保などの体制強化だけでな 境省を含む行政の予算・ 0 人と資金の流れをつくり出 j 推進が必要です。 促進が大きな課題となり は、 課題解決のためには、 民間連携による保全活 活動団体と支援を希 絶滅危惧種保全への N A C S 環境省委 人員 す 環 ま

しくみづくり

絶 市民提案による 認危惧種指定がスタート



藤田 (生物多様性保全室)

林野庁・保護林制度の

改定と再編成が実現!

を機につくられた「森林生 再改定につながりました。 ていましたが、 の見直しをかねてから提案し 地域でした。 の中に新たにつくられた保護 庁国有林野が持つ保護林制 系保護地域」。これ 治結果、 種別が、生態系、 な森林を守る自然保護運 25年前、 今ある7つの保護林 知床や白 この制度の再度 2015年に 生物群集 は、 神の 林 原 度

間

行ってきた 個別案件として、

「木曽ヒノキの

この3年

て再生修復し、

もとの森の

の復元を目指すコアエリア

「生物群集保護林」

の第

残存する自然林を時間をかけ 自然林」保護の取り組みでは、 うち数種は、

しました。

この新規指定種 国民からの提案

<u>の</u>

n

らの画期的な成果は、 、基づき指定されました。

13 年

76種となり、

1年間で倍

が新たに追加指定され総計1

保存法」に基づく国内希少 絶滅危惧種を守る法律

2015年度には8種

森林生物遺伝資源保存林 (75 fha) 生物群集保護林 林木遺伝資源保存林 (9 Fha) 植物群落保護林 (161 fha) 希少個体群保護林 特定動物生息地保護林 (23 Fha) 他制度の活用、施業 上の配慮を検討 特定地理等保護林 (37 Fha) 実線:基本的な移行/点線:現状 郷土の森 (4千ha) の保護林の性格を踏まえた移行

▲国有林の新たな保護林の区分。

滅危惧種の保全回復計

画

森林生態系保護地域 (655 Fha)

テキスト

を作成

を進めるため

0)

『市民版

市民が主体となって保全活 に、皆様からの寄付を活か 託業務により提案するととも

動

ご覧ください。

近日公開予定です。



▲生物群集保護林の第一号となった、木曽のヒノキの自然林。

成を行っています。 て全国の7つの森林管理局 ました。15年から16年にかけ 希少個体群 現在 の3つに変更され の保護林 Ó 再



横山隆 (保護室)

自然への想いを 力にする



▲初の平日開催となった第512回自然観察指導員講習会(東京都八王子市)。

▶指導員シンボルマーク。指導員の方なら 誰でもNACS-Jウェブサイトの会員専用ペー (http://www.nacsj.or.jp/kaiin/) か

らダウンロードでき ます。名刺やグッ ズへの印刷、 ラシやSNS掲載 などどんどん活用 してください!





NACS-J 自然観察指導員 since 1978



ふくだひろかず福田博一 (市民活動推進室)

こばやしきょう こ 小 林 今日子 (市民活動推進室)

モチーフはルーペとふたば 守る仲間が続々と増えました。

せたモチーフで、 指導員シンボルマークが誕生し 70作品もの応募作品の中から、 指導員に呼びかけて集まった ルーペとふたばを合わ 指導員活動に

初めての平日開 皆様のおかげで、 2015年

実施に消極的だった方が最後は 開催したところ、定員の2倍近 向きになられるなど、 は熱心に学ばれ、 応えることができました。 では受講しにくい方々の希望に 組織の誕生につながりました。 支えていただき、 に共催やスタッフとして力強く 指導員連絡会や指導員有志の方 が誕生しました。 度は自然観察指導員講習会を12 会を開催し、県内の指導員連絡 ·どんどんトライしたい」と前 願いが叶って受講された方々 |開催でき、620人もの仲間 お申し込みがあり、 また、初めて講習会を平日に 岡山県では18年ぶりに講習 企業と共催できまし 始め観察会の すべての回で 地方自治体や 自然を見 週末開催

まいります。 手である指導員養成に邁進して それができたのは、 けてきた成果の現れでもあり、 近くにわたって指導員養成を続 も自然保護教育の柱として40 勢が刻々と変化する中にあ た。このようなことは、 思いで受講された方もいまし 後ろ姿を見て、 の応援や協力のおかげです。 指導員講習会の参加者の 指導員として活動する親の からも自然保護教育の担 「自分も」 会員や指導 社会情 との

導員ならどなたでも使用できま されています。 つながる「わくわく感」 よる人と自然の明るい未来 このマークは指 が表現

すので、

名刺に入れるなどして

気セミナーになりました。 んなテーマを待っていた! 遠方からの参加者もあり、 質をテーマにしたセミナーには た!」といった感想が、 観察会のコツを学ぶ研修会」 サイトをご覧ください。 いう声が多く、満員御礼の大人 ご活用ください。 ゙゙ネイチュア・フィーリン 「新しい発見があると気付 「地域の自然を理解 詳細はウェ また地

自然への想いを 力にする



▲ソニー (株)と、社員・一般の親子向けに行ったセミの羽 化観察会「わぉ!わぉ!自然観察会 神秘の瞬間を体験」。(日 比谷公園:東京都)

教室」。(光が丘公園:東京都)

▲ (公財) ノエビアグリーン財団と、一般の方 を対象に行った「草原で学ぼう! 親と子の環境 (公財) ノエビアグリーン財団と、

どうけてっぺい道家哲平 (自然のちから推進室)

2015年度は、

企業との

連



おおのまさと大野正人 (自然のちから推進室)

め 察会など体験の場を提供しまし 株式会社とスタ 多様性プロジェクト」 を目指す 生物多様性保全につなげること 〇が協働することで発信力を高 ださいました。また企業とNG 400名を超える方がご参加く 携企画を多数開催しました。 社と連携し、社員対象の朝の観 触れ合いの中で見つけた感動 具体的には、 自然に触れたときの感動を や自然教室などを行 親子対象のネイチャーツ ミの羽化やムササビの観 イスブック上で共有した 「わぉ! 日々の自然と わぉ! トさせまし をソニー 生物 17

企業との連携で、より幅広 八に自然の魅力を伝える 指導員に提供することで、 0) た。

ゥ また、

ハウやツールを自然観察 積極的に自然観察会

ることに力を注いでいます。 と触れ合う楽しみや価値を伝え らうことがまず第一歩です。 さを体験してもらい、 多くの方に自然の面白さや大切 共通認識にしていくには、 「生物多様性の保全」 CS-Jでは、 子どもから大人まで、 だれとでも を社会の つでも、 を大切 より 自然

きな収穫です。 層にアプローチできたことも大 点の少なかった自然志向の女性 み合わせることで、これまで接 でした。自然観察をヨガやスキ がより活かされた、 をほぐすことで、 自然観察の前にヨガを行い身体 会×スキンケアセミナー」 ルと連携して行った「自然観察 販売する株式会社ネオナチュラ でにないさまざまな企画を な企業との連携が生まれ、 ンケアといった新たな視点と組 しています。例えば、 ただいたことをきっかけに新た オーガニックコスメを製造 16年度も、 入会やご寄付を 観察では五感 と大変好評 5月に国 は、

ぱいです。 の皆様にも感謝の気持ちでいっ 協力いただいた自然観察指導員 各活動に、 ボランティアでご

このような企業との連携が増

なりました。

い指導員の皆様の活躍の場にも



三井住友海上火災保険(株)と、一般小学生向けに連続講座と して行っている「駿河台・生きものさがし自然塾」。第2回は土の 中の生きものをミクロな視点で観察した。(ECOM 駿河台:東京都)



(株) サニクリーンと、一般親子を対象に行った「第10回サニエ ルおやこネイチャーツアー」(芸北地域:広島県)。雑木を伐採して汗 を流し、薪を活用した地域の経済を学んだ。





摘発するNGOの活躍、

環境影

価法やグリ

ーン購入法と

企業の取り組みを監視し不正を

化すると同時に、

操業に必要な

に増加

してきました。

経営方針や環境報告書に生物多 か、と言われ、大企業を中心に、

然資源の減

価格向·

上や、

▲▶隣りあったビルにオフィスを構えるソニー(株)と(株)明電舎が合同で、オフィスビルの緑地で行っている社員向けの早 朝観察会。緑地で観察できる自然を紹介した「自然観察マップ」も制作した。(ソニーシティ大崎・Thinkpark Tower:東京都)

、環境配慮の状況を審査し、

世界のNGOの中には企業

を変更させようと働きかける団 れによって銀行などの融資方針

NACS-Jとの企画 連携をご希望の方 は担当までご連絡 ください!

担当:三好紀子(自 然のちから推進室) TEL: 03-3553-4101 Eメール: miyoshi@nacsj.or.jp

必要がでてきたのです。 響などを把握し、 れる自然そのもの 体まで生まれています。 恵み 企業は、 すために必要とする自然 が自然環境に及ぼす影 それをもたらしてく 製品やサービスを 対応していく への理解を深 これら その

化していることがあります。 生物多様性に関する認識が 企業を取り巻く情勢は、

グロ ーバル化により競争が激 様性の保全を掲げる企業が着実 生き残っていけないのではな に対応していない企業は、

生まれつつあるのです。 普及啓発の活動を長年続けてき ともあり、 物多様性の理解が遅れているこ たNACS-Jとのかかわり のように生物多様性に取り かに そこで、 かし、 ついては、 課題が山積してい 企業が具体的に、 生物多様性保全の 基本となる生 組む が سط

化などが世界規模で進んでい いった環境に関する法制度の

ま 強

感じています。 くりにつながる大きな可能 を主流化させるチャンスであ 社員やその家族など一 社会的責任を果たすことへの協 との連携は、 の自然体験を通じて生物多様性 力にとどまらず、 Ν 自然の力を活かした社会で ACS-Jとしても、 企業の社会貢献や 企業を通じて 人ひとり

様とともに生物多様性の を見つめていきます。 ユニークな「自然とのふれあ 機会をつくり、 今後も、NACS-Jら より多くの 面 百台さ

愛知ターゲットを

盛り上げていこう!

10

■愛知ターゲット達成に取り組む 人々をつなぐ「にじゅうまるプロジ

ェクト」第2回パートナーズ会合。 性 決まった「国連生物多様性 生 |物多様性条約COP 015年は、

助

場に、 というゴールを設定して、 2020の活動宣言を集める を開催し、 催地の愛知の名古屋大学を会 ジェクト」では、COP10開 をつなぐ「にじゅうまるプロ これらの活動に取り組む人々 「ジェクトパートナーズ会合 1際目標 様な活動が進んでいます。 達成に向け、 劣化を食い止めるため で設定された、 第2回にじゅうまるプ の中間年でした。 「愛知ター 2020年までに 日 本国内では 生物多様 ノット C σ

きな可能性を感じています。 用されます。 物多様性普及ツールとして活 5つのこと」を作成しました。 館向けのMY行動宣言シー 会と協働して、 151の動物園・ の自然保護の普及進展に大 一物多様 働の 性MY行動宣 始まりを通じ、 動物園・水族 動物園 水族館で生 日や水族

▲動物園や水族館と連携し生物

多様性の普及ツールを作成。



とうけ てっぺい 首家哲平 (自然のちから推進室)

ました。民間保護地域の推進 り5年間活動を展開するため の成果もありました。 生物多様性に影響を及ぼす補 金 課題などについて話し合 への提言がまとまるなど

員会 席し日本の情報を発信すると などで発信しました。 対象のシンポジウム、 生物多様性に関する会議に出 める国際自然保護連合日 し、その成果を市民や企 Ν ACS-Jが事務局 (IUCN-J) 世界の最新動向を把 勉強会 では、 |本委 を務

また、日本動物園水族館 協

大人気の市民講座 「Nカレ」全国行脚

名にご参加いただきました。 計26回を開催し、 2015年度は18シリーズ るNACS-J市民 スペシャリストが講師を務 NACS-Jに集う各分野 (略称: Nカレ)。 延べ985 カレ

実現。

会員の皆様への認 宮城) (兵庫、

知度

でも開催

全国5カ所

め

随時発信しています。 う、工夫をしていきたいと思 めるきっかけを提供できるよ 生物多様性保全への理解を深 ぜひご参加ください。 あるテーマがありましたら います。開催情報はウェブサ の自然の価値や魅力をご紹介 も徐々に高まっています。 イトやフェイスブックなどで これからも毎月1~2回 多くの皆様に自然保護や より幅広い切り口で日本 スで開催を予定してい 関心の ぇ

地質の話から、サシバやチ

フォレスト」を拠点に地形

イベントスペース「M

の協力をいただき、

三菱商事

東京では、

三菱商事株式会社

ウなど絶滅の危機に瀕した生

きものたち、

ネイチャー

-フォ

ラエティに富んだライ

自然にまつわるテー

-マを

浮世絵、

土と食



▲神戸で開催したシリーズ19「みんなで 学ぼう! くらしと生物多様性!」。



▲シリーズ27「南三陸味わい サロン」では、南三陸の自然 の魅力を学んだ後、南三陸の 恵みを味わいながら参加者同 士の交流を深めた。



ナップでお届けしました。

また、15年度は東京以外の

第二回



▲受賞記念シンポジウム。「子ども・学生部門」 のFANフィールドアシスタントネットワークの皆様と審査員の イルカさん(上)、 受賞者と選考委員の皆様

きな反響となっています。

受賞者の皆様のこれまでの

そして最前線の取り組

のメディアで取り上げられ

ターネットニュースなど多く 者の取り組みは新聞やイン 活動が紹介されました。受賞 ダー部門)

など、大変幅広

のと、

大きな期待を感じるも

様生保全をより推し進めるも みが日本の自然保護と生物多

のとなりました。

さらに選考委員が特に今後期 きました。 待する活動に贈る賞として と、特別賞である沼田眞賞、 126件ものご応募をいただ 選考委員特別賞」を決定 15年度は、全6部門の大賞 品を使い、

に受賞記念シンポジウムを開 催しました。 一年2月7日に授賞式、 並

び

する取り組みを顕彰する「日

保護と生物多様性保全に貢献

本全国で活躍されている自然

2014年に創設され、

日

本自然保護大賞」、

2年目と

なる15年度は日本全国から

する活動 (保護実践部門) 若者たちが遠方の自然保護活 貴重な動植物の生息地を保 北や沖縄の干潟やサンゴ礁で このシンポジウムでは、



日本自然保護大賞を実施

(自然のちから推進室)

動を支援しに行くキャンプ活 推進する活動(企業・団体リー に田んぼの生物多様性保全を 業が本業で生じるリサイクル 動(子ども・学生部門)、企 地域の農家ととも

「日本自然破壊協会」に改組!? エープリルフール企画で大注目!

広く一般の方にNACS-Jに より親しんでもらおうと、2015 年4月1日のエープリルフール に、「4月1日をもって、 日本 自然破壊協会に改組しまし た」というウソのプレスリリー スを発表しました。インターネッ



こうちょやこ 幸地彩子

トユーザーを中心に、ユニークなウソとして注

目され、広く関心を持ってい ただくことができました。

> また、これがきっかけとな り、16年のエープリルフー 材を受けました。16年の企 画は4月1日に「おはよう日 NACS-Jをアピールすること につながりました。

ル企画についてNHKの取 で放送され、広く

多様なメディアで 然保護の情報を発信

まったヒノキの天然林保護の 護の動向や活動のコツをお伝 関する国内唯一の情報誌とし 察ポイントを紹介。また、「表 ラムシなどの身近な自然の観 連載では、松ぼっくりやアブ 新たな取り組みなどを解説 点から解説したり、木曽で始 辺野古問題を海域生態系の視 えしてきました。特集では、 てさまざまな視点から自然保 フォトコンテスト」を開催 会報は、 日本の自然保護に

保護への理解を広めています。 などのSNSで発信し、 解説や見解をフェイスブック や話題になっていることとN 時発信。 フブログでレポートなどを随 の内容、 の進捗状況、 しても活用しています。 然の姿を発信・共有する場と ACS-Jの活動の関連性の ウェブサイトでは、 撮影者が魅力を感じた自 そのほか、ニュース イベント情報、 意見書や要望書 スタッ



(会員連携室)

のため、職員大募集



2015年度 意見書・声明・パブリックコメントなどの提出

〈意見書・要望書〉

- ①高知県安芸郡馬路村魚梁瀬地区の国有林を中心に分布 するヤナセ天然スギの保護林拡張による保全と復元に 向けての意見書
- ②大浦湾のジュゴンの食痕の調査実施の要望
- ③環境監視等委員会へのジュゴンの食痕情報提供に関す る要望書
- ④普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境保全措置の 監視をより積極的に行うことを求める要望書
- ⑤辺野古・長島の利用許可申請書 (要望)
- ⑥普天間飛行場代替施設建設事業による辺野古と奄美の 自然破壊について再考を求める要望書
- ⑦那覇空港滑走路増設事業における土砂調達先の変更申 請に関する要望書
- ⑧京都スタジアム(仮称)整備事業について
- ⑨普天間飛行場代替施設建設事業に係る環境保全措置に 伴う問題への対応についての要望書
- ⑩那覇空港滑走路増設事業による沖縄と奄美の自然破壊 について再考を求める要望書
- ⑪普天間飛行場代替施設建設事業に係る工事の実施設計 及び環境保全対策等についての回答文書に関しての抗 議文
- ②普天間飛行場代替施設建設事業に係る工事の実施設計 及び環境保全対策等に関する「協議」を「集中協議」 の期間に実施しないことを求める要請書
- (3)沖縄県と日本政府との協議のあり方に対する要望書
- (4)米軍普天間飛行場代替施設建設事業の中止を求める要 望書
- ⑤天然記念物オカヤドカリ類の捕獲・移動を求める文書 へ同意しないことを求める要望書
- 16四国に飛来するツル類の緊急保護対策について
- ①山形県酒田市十里塚風力発電事業の中止を求める意見書
- ⑱泡瀬干潟のラムサール条約登録を求める要請書
- ⑨沖縄防衛局による岩礁破砕の有無の確認に関する沖縄 県の判断についての質問と岩礁破砕許可取り消しの要望
- ② (那覇空港滑走路増設事業建設のための) 奄美大島から の石材の搬入に対する要望書
- ② 千葉県行徳野鳥観察舎の存続を求める要望書
- ②沖縄県が独自に実施するジュゴン調査に対する要望書
- ②政府・沖縄県協議会の公開を求める要望書
- ②(仮称)羽田連絡道路に関する協議会設置の要望書
- ②辺野古・長島の利用許可申請書 (要望)
- 26沖縄県と日本政府との協議のあり方に対する要望書
- ②かんばる国立公園(仮称)の指定及び公園計画の決定 に関する意見(パブリックコメント)

★要望書・意見書などの本文は、NACS-Jウェブサイト「過 去のニュース に掲載しています。



▲保全復元に向け調 整・検討中のヤナセス ギの森 (意見書①)。

▶ナベヅル。近年、 四国への飛来が確 認されるようになり、 保護対策が求められ ている(意見書⑯)。





◀絶滅危惧種アユモドキ。 京都スタジアム建設予定地 は近畿地方で唯一残る生 息地で、計画の見直しが求 められている (意見書®)。



▲羽田連絡道路建設予定地には、東京湾では希少な、豊かな河 口干潟が残る (意見書24)。 (写真:日本野鳥の会神奈川支部)

〈声明・パブリックコメントなど〉

- 28「中池見湿地付近における北陸新幹線ルートの変更」 についての意見
- ②安全保障関連法案に対する自然保護の立場から反対す る緊急声明
- ③の政府による米軍普天間飛行場代替施設建設事業の強行 に対する抗議
- ③沖縄防衛局のオカヤドカリ類の捕獲と移動に申請に対 する文化庁の同意への抗議
- ②沿岸生態系を活かした防災・減災のための提言 ~多様でダイナミックな自然と共存するために~
- ③③辺野古埋め立て工事中断に関する声明
- ③環境影響評価制度の実効性強化のための提言
 - ~日本自然保護協会の環境影響評価制度に対するポジ ションペーパー~

2015年度 収支報告

(2015年4月1日~2016年3月31日)

NACS-J の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。 以下に収支概要をご報告いたします。



2015年度は、収入は全体で2億6273万円となり、前 年度に比べ2170万円の増加となりました。支出は全体 で2億5275万円、前年度比プラス2340万円となり、収 支のバランスを取りながら活発な活動を行うことができ ました。生じた差額の約1000万円は中長期的な事業実 施に備えるための積立資産に繰り入れ、今後、3カ年計 画として掲げているサンゴ礁保全やイヌワシをはじめと する絶滅危惧種の保護事業、自然保護の人材育成事業な どに活用していきます。

●収入(収益)

会費とご寄付は収入の42%を占めています。科学的根 拠を持った独自の活動を進めるためには会費やご寄付な どの継続的なご支援が必要です。2015年度は特定の保護 活動への大口の指定寄付による積立資産を創設できたほ か、企業からの寄付・協賛が増加したものの、個人寄付、 個人会員については、全体としては減少傾向が続いてい ます。

個人会員への入会は、自然観察指導員への登録などを きっかけに50~60代男性と若年層の参加が増えていま す。今後はさらに若い方々へもNACS-Jの活動を知って いただき、積極的なご支援を呼びかけるとともに、ご寄 付を着実に成果に結びつけることで、自然保護活動の成 果を社会に還元するよう努めて参ります。

●支出(費用)

公表している決算を活動分野ごとに表しました(下図)。 支出の95%を事業費として、5%を公益法人運営のため の管理費として活用しました。

「保護事業」では、沖縄県辺野古の埋め立てや、東北で 進む巨大防潮堤建設、南アルプスを貫くリニア中央新幹 線計画、福井県中池見湿地の新幹線計画など、全国の自 然保護問題の解決のための事業を行いました。

「自然を生かした地域づくり事業」では赤谷プロジェク トや綾プロジェクトなどの森林生態系の協働保全管理や、 各地の地域戦略づくりやエコパーク登録の支援などの事 業、生物多様性条約の愛知目標達成促進などIUCN-J事務 局関連事業や国際的な活動を実施しました。

「自然の守り手拡大事業」は自然観察指導員の養成や研 修、モニタリングサイト1000里地調査のほか、自然観 察路コンクールや企業との自然観察会推進活動、国際生 物多様性の10年日本委員会(UNDB-J) などの生物多様 性の主流化の普及啓発活動を含んでいます。

「情報発信事業」では、会報『自然保護』の発行、ウェ ブサイト、SNSでの発信、各地でのイベントへの出展活 動を行いました。

皆様のご支援で多角的で自主的な自然保護活動が進め られ、また受託事業や助成事業でも、NACS-Jが主体的 に企画し、全国的に取り組む活動を国や自治体に提案し 実施することができています。会員の皆様の継続的なご 支援に厚く御礼申し上げるとともに、今後の全国での活 動へのご支援とご協力をお願い申し上げます。

(事務局長 鶴田由美子)



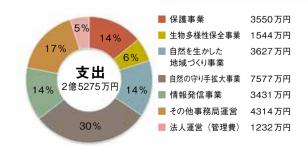
▲人工林を伐採し自然の森へと復元させている赤谷の森で、動物の生 息状況を調べるため設置しているセンサーカメラの交換。



▲いろいろな場所でNACS-Jの活動をアピール(ソニー㈱の社員食堂)

2015年度の決算





ご寄付いただいた皆様 ありがとうございます。

2015年度 総額3618万9035円※

15年度合計寄付額1000円以上の方

(50音順、敬称略)

崎 実/小田 邦矩/小野 知洋/小野 裕三/小畑 航太/荻野 幸夫/奥村 ひろみ/小栗 幸雄/尾 航太/荻野 幸夫/奥村 ひろみ/小栗 幸雄/尾 小川 久天 雅章/大山 千代子/小笠原 則子/岡野 大大田 豊/大野 久良夫/大野 高広/大原 典子 伊藤 千代子/伊東 陽子/伊藤 博章/伊藤 裕志正/伊藤 和美/伊東 要/伊藤 進治/伊東 毅/谷 学/市川 潤/井出 和夫/井手 昌子/出原 和 グリゾート/伊勢 亮子/井関 奈津子/伊勢崎市/石津 美紀子/泉 文宏/(株)伊豆海ダイビン/石井 由和/石坂 克之/石崎 一記/石田 清明 恵/金山 陽子/金重 靖夫/金久 由美子/金光 徳彦/小見寺 公一/折口 晴夫/加川 晶子/垣見 大谷 美穂/大塚 芳裕/大槻 博明/大坪 和洋//大住 克博/太田 慶子/太田 毅/太田 増江/ 俊光/上野 竹彦/上東 まど香/ウォーターワン /岩崎 信義/岩田 浩司/岩田 義宏/岩部 良子智/入江 孝史/入江 洋明/入倉 進/岩﨑 潤三 恵/稲垣 康幸/稲田 泰憲/稲葉 晃/稲見 慎三 恭仁子/有馬 重孝/有本 実/飯塚 紘一/飯塚 れい/ (株) アベイルテック/天方 龍之輔/天野俊一/阿部 敏行/阿部 光子/阿部 従子/阿部 有志/東 喜久子/安積 鉄二/阿部 和子/阿部 ジー(株)/アジレント・テクノロジー 司/浅井 祐子/浅井 渉/浅野 敏久/浅野 政栄 や子/秋元 通/秋山 幸也/浅井 宏司/浅井 / 今井 友之/ 今瀬 憲洋/ 今田 裕実子/ 今安 祥/ 井上 弘郷/ 井上 雅勝/猪又 弘美/ 今井 勝義/ 井野 勝行/ 井上 幸子/ 井上 周一/ 井上 信夫 /伊藤 文子/伊藤 理恵/井戸田 恵子/糸原 久 立第一中学校 美術部/磯谷 尚子/磯村 泰正/板 枝/池田 久浩/池藤 栄/井澤 邑夫/石井 夏海 友康/医学部受験専門予備校メディカルアーク 公逸/新井 一正/新井 苑子/荒井 茂登美/荒木 /上田 志朗/上田予備学校/上塚 浩司/植月 /生田 秀寿/井口 利枝子/池田 和子/池田 君 /阿佐美 昇/芦田 稔/アジレント・テクノロ 〈赤井 賢介/赤沢 美恵子/赤羽 ユリ/秋田 あ温澤 志保子/青木 一恵/青木 登志夫/青木 久 聡あ

塩田 禎子/塩田 正子/鹿間 信弘/篠﨑 淳/篠塩田 禎子/塩田 正子/鹿間 信弘/篠﨑 淳/篠垣田 禎子/島田 泰三/島田 南野 八人正関 美尚/清水 駐西 (株) /治 が 東西 / 海 で 東西 / 海 で 大田 和広/ 城 満憲/ 正野 弘晃/ 昭和シェル 一 (株) / 治郎堂 実/ 白木 照代/ 新城 正男/ 末古 典子/ 須賀 等/ (株) 菅組/ 菅谷 克仁/ 吉原 充子/ 杉野 京子/ 杉本 玄海/ 杉森 広海/ ド本 大学/ 杉野 京子/ 杉本 玄海/ 杉森 広海/ 大寺 東子/ 鈴木 淳子/ 鈴木 卓也/ 鈴木 竜山/ 杉本 大男/ お木 文夫/鈴木 マギー/ 鈴木 正見/ 鈴木 直子/ 鈴木 東子/ 一 (株) | 京子/ (株) | 京子/ (本) | 猿田 孝一/澤田 泰子/澤田 龍子/澤邉 一男/佐藤 雪丸/佐藤 能生/實松 千尋/佐野 弘明/ (佐藤 博久/佐藤 正美/佐藤 満/佐藤 雄二/大佐藤 超/佐藤 岳幸/佐藤 充郷/佐藤 友彦/佐藤 亜矢/佐藤 健|/佐藤 さくら/佐藤 潤

辺洋子/渡辺良明/渡邉 慶孝辺 研一/渡辺 千春/渡部 直衛/渡辺 葉子/渡和田 茂幸/渡辺 章/渡邊 江梨/渡辺 和子/渡人若林 有美子/若山 聡/脇本 秀行/鷲 修子/

ルドビジネスサプライ/和歌 和男

聖子/木川美晴/菊田 穣/菊池 明/菊池 等/ 聖子/未川美晴/菊田 穣/菊池 明/菊池 等/ 聖子/条原 和寿/(株) 群青コミパニケーショ 曜子/条原 和寿/(株) 群青コミパニケーショ 曜子/条原 和寿/(株) 群青コミパニケーショ 曜子/桑原 和寿/(株) 群青コミパニケーショ 曜子/桑原和寿/(株) 群青コミパニケーショ 野子/桑原和寿/(株) 群青コミパニケーショ 野子/桑原和寿/(株) 群青コミパニケーショ 野子/桑原和寿/(株) 野青コミパニケーショ 野子/桑原和寿/(株) 野青コミパニケーショ 小林 美珠/駒形 康吉/小松 憲司/小宮 真佐代小林 喜美男/小林 繁/小林 伸一/小林 玉江/小株 喜美男/小林 繁/小林 伸一/小林 玉江/小鳥 弘之/小杉 義信/小平 末喜/後藤 賢一郎戸天ペロ/與石 博史/小柴 裕子/小嶋 正悟/ 薫/川嶋 正勝/川名 恵子/川名 教子/河野 仁朗/河上 寿和子/川上 典子/河口 和代/川崎明/河上 寿和子/川上 典子/河口 和代/川崎 史子/苅谷 雅充/河合 明宣/河合 美砂/川勝 史朗/神谷 省司/亀島 義史/亀山 二郎/唐沢 良朗/神谷 省司/亀島 出 一彦/光田 道雄/河野 純子/河野 美樹/神 関西商事(株)/関西チップ工業(株)/木内 のエコ・ミュージアムセンター/菅家 惣一郎 河村 浩子/川村 道哉/川原田 稔/環境省えび/川野 幸子/川幡 公子/川南 仁/川村 和子/ ンズ/(株)KCD/剣持 雅信/小池 菊平/小 一土屋 俊幸/津村 義文/出口 靖/手塚 幸夫/土屋 俊幸/津村 義文/出口 靖/手塚 幸夫/一部志 あゆみ/辻 博之/址 真理/辻田 良雄/都志 あゆみ/辻 博之/址 真理/辻田 良雄/都志 あゆみ/辻 博之/证 東子/塚本 和義/昭村 典子/遅塚 令二/一寸木 肇/塚田 柱子/田村 東子/遅塚 六二一寸木 肇/塚田 柱子/田中 正視/田中 万寿/田邊 光彰/谷口 雅保/田中 正視/田中 万寿/田邊 光彰/谷口 雅保/ /田中 淳子/田中 敏裕/田中 秀典/田中 博//竹村 新一/武村 朝邦/田島 研介/田中 均一/式内 紘/竹内 幹夫/竹田 喜美子/武田 隆雄真理子/田久保 精司/田久保 晴孝/竹内 達生 知子/高原 弘文/滝石 有紀/瀧澤 宏直/瀧島誠/高橋 由衣/髙橋 由紀子/高橋 洋一/髙畑誠/髙橋 章/高橋 喜代治/髙橋 英/高橋 ラースー高瀬 正徳/高田 容子/高野 華苗/髙野 髙木 和彦/髙木 健次/高木 慎之助/高草木 リ園田 愛美/平 順一郎/田植 豊実/髙岡 大輔/田 雅次/相馬 健次/曽我 日出夫/曽我 基行/ 雅次/相馬 健次/曽我 日出夫/曽我 基行/関 隆宏/関 久恵/関口 滋子/瀬間 英子/芹

松島 大/松田 佐保子/松田 孝子/松田 美智子浦 ひろみ/松川 羊子/松澤 渓美/松下 隆文/

/真鍋 ヤス/真野 亨男/間宮 八枝/丸田 敬根/松本 泰征/松本 亮征/松森 繁/(株)松屋/松本 明/松本 健太郎/松本 光史/松本 俊明

/廣澤 利幸/広友 詞子/(株)FACTORY KURA/平野 公子/平野 孝師/平林 史孝/廣井 健男/平岡 利彦/平田 克紀/平田 奈巳/平野 悦子/平岡 利彦/平田 奈巳/平野 悦子

本多 ひろこ/前川 和子/前田 和治/前田 啓治三智子/堀内 喜久子/堀川 博誠/本多 彦雄/ 藤原 正寛/船戸 三枝子/古川 靖晃/古澤 賢彦藤田 正文/藤田 元義/藤野 暁海/藤原 勝明/田 あや子/藤田 重輝/藤田 政登/藤田 雅彦/ 子/星野 信子/星野 由美子/細川 佳代子/堀/古田 悦雄/古間木 達也/文屋 佑介/辺見 茂 富士ゼロックスインターフィー 藤井 達雄/藤岡 宏二/藤木 知義/藤沢 浩憲/ /牧野 立子/巻幡 理代/正岡 亨/増尾 孝/松/前田 正伸/真壁 健二/槙 ひでこ/槙野 青葉 佳子/福地 俊美/福原 卓也/福村 しづ江/道雄/福島 広子/福嶋 真人/福田 裕子/福 ルド (株) /藤 裕子/福

岡 勉/宮木 良博/三宅 睦生 /宮坂 美喜夫/三戸 俊徳/南 志津子/南 佳孝/宮内 貞美/宮三菱地所(株)/三菱地所・サイモン(株)/

宮崎 玄教/宮﨑 安代/宮澤 恵子/宮島 あつ子

/宮原 さゆり/宮本 隆広/宮本 美織/ミュー

呂木(株)/樒川千尋/三谷親子/三石政俊/原 容子/溝口 美輪/溝口 睦子/溝部 俊雄/溝野 憲一/水野 利彦/水野 裕子/水原 信行/水

/水谷 覚/水谷 真基/水野 敦子/水野 修/水

/三浦 敦/三浦 秀子/三浦 浩子/三上 眞喜子

● **2015 年度末会員数** (2016年3月31日現在)

個人会員 1万1134人 2442 人 ファミリー会員 71 人 ユース会員 332 口 / 213 団体 団体会員

法人特別会員 51 口/39 法人 寄付サポーター 1088人 アクションサポーター 9024人

> 計 2万4142人:口

●20年以上の会員企業

法人特別会員(50音順、敬称略)

カロラータ(株)

損害保険ジャパン日本興亜 (株)

電源開発 (株) 東京電力 (株)

(株) 日経ナショナルジオグラフィック 北陸電力(株)

(株) みずほフィナンシャルグループ

(株) 八ケ岳高原ロッジ

団体会員(50音順、敬称略)

(株) アボック社

東北緑化環境保全 (株) 宇和鳥自動車 (株) 日本製紙 (株) 王子木材緑化(株)

パシフィックコンサルタンツ(株) (有) オフィスアデム

(株)ピッキオ (株) 甲南保険センター 富士急行(株) (株) 佐賀銀行 (株) プレック研究所 (株) 清水屋ホテル 三菱マテリアル (株) 西武環境調査 (株)

民宿風蓮 (株) 高崎測量

(株) 野生動物保護管理事務所 立山黒部貫光(株)

ユニオンデータシステム(株) (株) タムロン

(株) りんゆう観光 秩父鉄道 (株) ロッジ・ネイチャー莫 (株) テクノ中部 鷲が峰ひゅって 東海教育産業(株)

東京パワーテクノロジー(株) 尾瀬林業事業所

●寄付額 10 万円以上の企業・団体(50 音順、敬称略)

*は社員有志募金や会社とのマッチングによるご寄付

全国労働者共済生活協同組合連合会 エプソン販売(株) (株) カインズ ソニー (株)*

(株) ダイフク

中外製薬労働組合ぽけっと基金*

(株) デマンド倶楽部

(株) ネオナチュラル

(株) ヒュー・メックス

富士ゼロックス(株)

富士ゼロックス端数倶楽部*

(合) ベアードブルーイング

(株) マツモトキヨシホールディングス

(宗) 真如苑・(株) 一如社 三越伊勢丹グループ労働組合*

三菱商事 (株)

●そのほかの形によるご寄付

●店舗・施設への募金箱の設置

カロラータ(株)

共同印刷 (株)

グラウクス (株)

(株) サニクリーン

資生堂花椿基金* ジャパン・カインドネス協会

(有) Saintarrow

積水樹脂(株)

長年のご支援

ありがとう

ございます。

三栄商事 (株)

国画会

経団連自然保護協議会

- ヤフー、ジャパンギビング、ソフトバンクモバイル、環境アリーナ研究 機構、しぜんもん SHOP& 寄付など、インターネットからのご寄付
- gooddo のインターネットクリック募金
- 余った切手やはがきのご寄付
- ●(株) ニコンからの調査機材の寄贈
- 誌面や番組での広報協力
- 自然しらべや各種企画の参加者、会報読者へのプレゼント提供
- イベントでの会場提供



募金箱の設置協力(写真提供:大阪 のカエルグッズの雑貨屋ひより。)



書き損じハガキのご寄付



2016年度の事業計画

新たな自然保護の課題解決のために

近年日本の自然環境では森林や里やまなど陸域の保全 が進む一方、干潟や砂浜・サンゴ礁・藻場といった海の 沿岸生態系については、1960年代から続く大規模な自然 破壊が今なお続き、沖縄県辺野古・泡瀬の開発や東北の 砂浜での巨大防潮堤の建設など、深刻な状況が続いてい ます。またこれらの開発問題は、埋め立て土砂の移動や それに伴う外来種の移入、土砂確保のための新たな自然 破壊など、全国各地にさらなる問題をもたらしています。

さらに今後、日本の自然・社会環境は急激かつ大幅な 変化・変動に直面することが予測されています。温暖化 の進行や頻発する地震による災害の増加や、急速な人口 減少や都市部への人口集中・コンパクトシティー化が進 み、地方の過疎化による里やまの荒廃と、市街地での開 発や交通・沿岸インフラの再整備による身近な自然の喪 失の加速が懸念されています。

その結果、それぞれの地域で生物種の「地域絶滅」は さらに加速する可能性が高まっており、「絶滅」という不 可逆な変化を今すぐ止めることが大変重要な自然保護と なっています。

また、具体的な保護活動とともに、生態系サービスを 社会的に可視化して土地利用計画を根本的に見直すしく みづくりや、自然とのふれあいの機会を子どもからあら ゆる大人へ提供し、豊かな自然の価値の体験を増やすこ とが急務となっています。

絶滅危惧種の保全、自然の恵みを活かした地域 づくり、自然の守り手の育成を重点事業に

NACS-Jでは、2014年に新たな自然保護の課題解決の ため、2020年までの6つの中期目標を策定しました。特 に重要な環境の保護活動を引き続き進めるとともに、陸 域・海域の連続性の確保や保全上重要な場を保護地域化 するための政策提案・法制度改訂など、自然保護のしく みづくりに注力しています。2020年までの保護活動の主 要テーマとして「絶滅危惧種と生息地の保全」、「自然を 活かした地域づくり」、「自然の守り手拡大」を掲げ、日 本の自然環境問題・社会課題の解決や、持続可能な暮ら しの実現に向けた活動を推進します。

過去半世紀で保全の取り組みが進んだ森林生態系では、

"自然のちからで、明日をひらく。" 社会をつくるために。

「自然破壊を食い止める」ことから、「森の恵みを活かし た地域社会づくりしへと、目標を移しながら取り組みを 進めます。2012年にユネスコエコパークへの登録が実現 した宮崎県綾町の照葉樹林プロジェクトや、現在登録を 目指している赤谷プロジェクトの活動地でもある群馬県 みなかみ町で、「自然を活かした地域づくり」の成功実例 を増やすことに力を入れます。

そして各地での保護活動を進める力となる、自然を守 る担い手を増やすため、全国で会員・支援者をさらに増 やし、特に若い世代の自然保護への理解者と協力者を増 やす「自然の守り手拡大」に注力します。自然観察指導 員養成事業を継続して全国へ広がりを生み出すとともに、 幅広い関心層に向けた普及啓発の機会を増やし、全国各 地の自然の守り手と協力して全国的な市民調査活動や、 次世代の自然保護リーダーの発掘・育成を推進します。

2020 年までの中期日標

目標1:自然を守り生物多様性の損失を食い止めた現 場実績を増やし、自然保護のしくみ・ 制度づ くりの実績を増加させている。

目標2:生物多様性・自然のちからを活かしたモデル となる地域を増加させている。

目標3:市民の自然とのふれあいの機会や「自然のち から | の理解の場を2倍にする。

目標4:会員・支援者に支えられる自然保護NGOとして、 多角的な支援を得る。

目標5:自然保護活動の連携を強化し、日本自然保護 協会の認知度を飛躍的に伸ばす。

目標6:多分野の支援を得て、段階的能力開発、働き やすい職場環境を構築する。



▲自然観察指導員講習会などを通じ、若い世代の自然の守り手拡大を目指す。

2016年度の予算

